

2019 年 4 月 12 日

2019 年 3 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は一部学参関連の動きが見られたが、全体的に低調で前月に続き前年を下回った。

（前年比 89.2%）

巻取は市販教材、生損保関連の仕事が順調に推移し前月に引き続き前年を上回った。

（前年比 111.9%）

再生紙は平判・巻取ともに在庫不足の状況が続き一般紙に切り替える動きも見られ前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 78.8% 再生上質巻取 72.4% 再生上質計 76.1%）

（前年比 印刷用紙 A 93.7%）

<A2 コート>

平判は金融、生損保、官公庁関連で年度末需要がありグロス、マット、再生紙ともほぼ前年並みとなった。

巻取は目論見書、生損保、企業カタログ等で動きがあったものの、品薄の影響からマット紙、再生紙の減少が大きく前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 99.3% 巻取 71.5% 全体 92.6%）

<A3 コート>

学習塾、量販店チラシ等、定期案件は前年並みの動きであったが、巻取の品薄の影響から新規案件が少なく前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 102.8% 巻取 85.0% 全体 91.3%）

<ノーカーボン紙>

官庁、金融、生損保関連と動きは見られたものの、年度末需要の取り込みも弱く改元前の影響もあり前年を下回った。

（前年比 平判 97.0% 巻取 90.1%）

<上質フォーム>

官庁関連の納付書等の動きは見られたものの、新規案件の動きも弱く在庫供給の影響もあり前年を下回った。

（前年比 96.9%）

<包装用紙>

特殊両更は金融、官公庁向け封筒用途での目立った動きもなく、その他全般的に低調な動きだった為前年を下回った。

(前年比 86.1%)

軽包装はGWに向けて大手通販会社のキャンペーン用封筒や製本会社向けの雑包装用途が好調で前年を大きく上回った。

(前年比 112.0%)

片艶晒は専門店手提げ袋用途や金融保険向け封筒用途で動きがあり前年を上回った。

(前年比 107.3%)

両更晒は協同組合向け封筒、役所向け封筒用途での動きはあったが前年を下回った。

(前年比 95.6%)

純白ロールは生花店向けお彼岸需要があったが省包装化、軟包装化の影響で前年を下回った。

(前年比 91.5%)

包装紙合計で 102.9%と前年を上回った。

<板紙>

食品、菓子の動きも鈍く低調であった。特板等の化粧品向けの POP 等も減少、行楽地の土産品も低調であった。

コートボール自体のパッケージ案件の荷動きも悪く、スポット案件等激減傾向で全体的に前年を下回った。

(前年比 96.8%)